

平成28年度 第1回向日市歴史的風致維持向上協議会 議事要点録

- 日 時 平成28年6月3日（金）10時00分から11時30分まで
- 場 所 向日市文化資料館 2階 研修室
- 出席者
(委員) 脇田会長、神吉副会長、高久委員、高木委員、小谷委員、中村委員、嶋田委員
大塚委員、六人部委員、横井委員、壺内委員、磯野委員、河内委員、丸毛委員
物部委員、大野委員、小賀野委員
(オブザーバー) 近畿地方整備局建政部計画管理課 藤本課長
京都府総務部自治振興課 石川参事
(向日市) 安田市長
(事務局・説明員等)
市長公室 今西室長、林副室長
広報・ふるさと創生課 伊藤課長、谷口主幹、人羅係長
建設産業部 都市計画課 巖嶋課長、道路整備課 太田担当課長
教育部 渡辺副部長（文化財調査事務所長）、玉城副部長（文化資料館長）

- その他出席者

傍聴者1名、随行2名

- 会議概要

- 1 市長あいさつ

- 2 議事内容

- (1) 平成27年度進行管理・評価シートについて

- 先に国に提出した計画の進行管理及び評価に係る資料に基づき、事務局から平成27年度実施事業の進捗等について説明を行った。

- (2) 平成28年度実施事業の主なものについて

- 計画に基づき実施する平成28年度の主要事業について、資料に基づき事務局から説明を行った。

※ 脇田会長が所用により会議途中からの出席となったことから、「向日市歴史的風致維持向上協議会設置要綱」第5条第4項の規定により、議長については、神吉副会長がその職務を代理することとした。

【意見の要旨】

委 員： 阪急東向日駅前については、これまで、飲食店が入居するビルの周辺景観形成上の問題があった箇所であるが、さらに近年では、パチンコ店の店舗面積拡充とそれに伴う壁面広告が周辺景観を阻害していると考えている。

市はどのように考えているか。

事務局： 現行法規制の中での開発行為であり、市としては、周辺景観への調和を指導してきた。今後策定を予定している景観計画の中で、屋外広告物について議論していきたいと考えている。

委員： 新聞報道では、乙訓2市1町と京都府が実施することとしていた「竹の京都」構想が、国から評価されるに至らなかったとのことであった。竹林や激辛商店街など、コンセプトの不統一が原因とのことであったが、竹の径とタケノコ栽培、そこに古墳が関わってくるこの竹林景観に係る歴史的風致は、非常に素晴らしいものと考えている。

乙訓や京都市との広域連携も含めて、この向日市の優れた風致をさらにPRしてはどうか。

事務局： 地方創生加速化交付金の獲得を目指していた事業で、「海の京都」、「お茶の京都」「森の京都」等の大きな事業がある中で、乙訓2市1町と京都府が地域振興を目的に実施することとしていた事業である。不採択の内容は、はっきりとはわからないが、今後も、広域でできることをひとつひとつ地道にやっていきたい。

委員： 竹林と生業としてのタケノコの問題、古代以来の景観問題、これらを竹の径の中で、中身のあるものとして包括していくこと考え、それをより大きく訴えてはどうかと考えている。

委員： 竹林は、畑と山林に分類される。昨今、担い手の高齢化等で放置竹林が増加しており、何か手を打たなければならない。

委員： 向日市では、地味ながら、いろいろな文化事業を実施している。地域の報道は、長岡京中心であるが、戦前乙訓の中心であった向日市を、もっと前面に出してもよいのではないか。

委員： 平成27年度の実施事業については、資料から、概ね非常によく進捗していると考えているが、歴史的建造物（富永屋）活用事業については、実施中でありながら、「計画どおり進捗していない」という状況となっている。どのような理由によるものか。

事務局： 富永屋の観光拠点としての活用について調査を実施し、地権者ともその趣旨で協議を行ってきた。本計画策定時には、協議は順調に進んでいたが、いざ事業を進めるといふ段階になると、所有者との協議等、様々な要因により、予定の事業年度での完了は困難ということでこのような評価としたところである。

副会長： 評価シートはシンプルに構成されているため、見方によっては、事業進捗しているように見えなくはないが、比較的正直に行われているこの評価は、実は非常に重要であると考えている。

シンプルが故に見えづらい、シートに現れない事実や理由等を、メモ書き程度でよいので、記載していると、より有効なものの見方や部局間連携、広い意見につながるのではないか。

委員： 乙訓古墳群が史跡指定され、向日市では、教育委員会の尽力もあり、市内5基が指定された。

これは画期的なことであり、評価シート上においても、もっと評価してよいと考える。

事務局： ご指摘のとおり、これら古墳群を乙訓地域の観光振興、地域振興につなげていきたい。

なお、評価の表記については、見直しを行いたい。

委員： 寺戸大塚古墳を公有化し、文化財の公園として整備すると聞いたが、面積の半分は京都市であり、乙訓での連携ではない。

向日市は向日市として、観光客に評価されるような古墳整備を考えていただきたい。

事務局： 乙訓古墳群に関し、個別の公有化についてはこの場では回答できないが、保存と活用については、総合的に考えていきたい。乙訓古墳群の活用、行政区での活用、単体の古墳の活用など、その在り方は様々に考えられるが、まずは、乙訓古墳群としての活用を考えてから、それぞれの古墳へという流れができればと考えている。

委員： 西国街道では、これまでからも美装化事業を実施されてきたが、資材が調達できないとの理由で、ところどころアスファルトによる補修跡がみられる。補修必要箇所については、穴埋めではなく、全体のやり替えも考える英断の時期にあるのではないかと。

事務局： 指摘の事項は確認するが、道路全体の修繕計画の中で当該箇所も検討することとなり、歴まち計画の他の事業エリアについても同様に、全体修繕計画の中で順次補修を行うこととしている。

委員： 駐車場等の着地点を設け、市内周遊の起点となる箇所の整備が必要と考える。また、向日市の高低差を考えると電動アシスト付自転車を活用した交通手段の提供も含めた周遊利便性向上のための施策が必要ではないかと。

事務局： 駐車場については、市長も悩んでいる。地道ではあるが、駅周辺で数台の駐車場設置を考えている。また、規模の大きい駐車場についても、周遊利便性向上を図るため、設置を検討している。

電動アシスト付自転車の活用については、これまでも市で議論はあったところであるが、引き続き積極的な検討を行っていきたい。

委員： 向日神社は、大型バスは物理的に受け入れられないが、受入可能な中型バス等での参拝が増えているように感じている。

聖域である神社に、歴まち計画での位置づけもあいまって、以前より多くの方がみえられていることをうれしく思う。

ワザバー： バス等の駐車場に関する事例で、例えば出雲大社では、駐車場からの距離があるため、その間に多くの店舗が並び、消費につながっているとのことである。

一方、奈良県斑鳩町では、法隆寺の至近の距離に駐車場があり、観光客等は、消費をすることなくそのまま帰路に就くとのことである。

このことから、当然バリアフリーの観点も必要であるが、通らざるを得ないルートを設定することも観光振興につながるのではないかと考える。

ワザバー： 電動アシスト付自転車についての意見があったが、向日市のコンパクトな地理特性を考えると、徒歩で周遊できる仕組みが重要であると考え。ガイドの常駐所となるような観光拠点の整備も必要ではないかと。

副会長： 道路の美装化については、実際に目に見てみると、意外に違和感はない。段差がなく、フラット故に危険であるなどの声もあるのではないかと。視覚的効果で自動車の安全運転につながるなど、どのような効果があるか興味がある。

ワザバー： 近畿地方における歴まち認定都市は、現在9都市である。あらたに認定を目指している都市もあるが、その中でも、向日市は非常に優れた取り組みを実施して

いる。

このような中、市民アンケートの結果については、特に満足度について「ふつう」という回答が最も多い結果となっている。

今後、取り組みを進めるにあたって、分析や改善等、事務担当としてどのように考えているのか伺いたい。

事務局： 何か画期的な事業進捗があれば評価いただけるものと考えている。このことを念頭に、今後も事業を進めていきたい。

委員： 向日市ではPRに力を入れておられるが、高槻市の今城塚古墳では、築造された6世紀だけでなく、中世の山城の時代など、時代が重層している見せ方が上手である。

向日市でも、一時代を切り取るのではなく、歴史の重層性を見せる見せ方を考えていく必要があるのではないか。

副会長： 昨年向日市で開催された景観フォーラムに参加したが、いろいろな資源、いろいろな人、それぞれのいろいろな苦労があることが感じられた。それらの活動を上手に、また、効果的に、総合的にサポートできる仕組みがあればよいと感じている。

3 その他

・本協議会の任期については、平成26年7月23日から本年7月22日までとなっているが、出席の各委員には、引き続き委員への留任をお願いしたい。

委嘱については、あらためて個別に依頼する。